

【小笠原村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- 1人1台端末を活用した教育プログラムの実施。
 - ・校内学習及び校外学習における端末活用の推進。
 - ・村立学校間(父島～母島)及び村外(村内～本土)をつないで実施する交流授業の実施。
 - ・夏季休業期間中等における遠隔授業の実施。

2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期において、1人1台端末を完全整備したことでの部活動遠征時の遠隔授業のほかオンデマンド配信による学習機会の創出が可能となった。

また村立学校教員間におけるオンライン会議の実施、児童生徒からの課題提出を行うなど活用の幅を広げられている。

一方では、端末の取り扱い時による故障、端末本体の重量による持ち運び時の支障、当村の気象条件が原因で発生する端末の不具合が課題となっており、取り扱いについては1人1人に物を大事にする意識を持たせること、保管方法については保管場所を含め今後も検討していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

①1人1台端末の積極的活用

児童生徒一人ひとりが自分で調べたり、考えをまとめ、発表・表現したりする場面などにおいて、自身の学びを広げていくために1人1台端末を活用している。

1人1台端末は必要不可欠であるため、引き続き学校教育の中心として活用することとしている。また教員に向け、ICT支援員に来島してもらい直接指導の機会を作っており、教師も1人1台端末をフル活用している

②個別最適・協働的な学びの充実

課題解決や学習調整に子どもたち自身が使い方を選択、駆使し、発表や表現する上で端末を利用し、児童生徒同士で意見をまとめるなど利用している。

また、児童・生徒が自分の特性、理解度や進度に合わせて課題に取り組むなど、個別最適・協働的な学びの一層の充実を目指している。

③学びの保障

1人1台端末によって、教師と子どもがつながり、子どもと子ども同士が繋がることでお互いの意見を出し合い、1人1台端末による学びの支援を保証している。

さらに障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じた支援も実施されている。

超遠隔離島であることから各種研究授業の村外発信や父島と母島をつないで実施する授業及び会議には1人1台端末でオンラインを積極的に活用することで父島母島分け隔てなく学びの場を保障している。

しかしながら第1期で課題となった端末本体の軽量化、故障及び不具合等が頻発する課題改善は第2期の端末更新における克服すべき課題としている。

児童生徒及び家庭において負担なく利用するための端末の選定が求められている。